

北海道におけるハクガンの記録と十勝における初観察例

柳川 久¹・武藤満雄¹

ハクガン *Anser caerulescens* はソビエト極北部、北米大陸北部、グリーンランドなどで繁殖し、冬はおもに北米中部などに、また、少数は中国などに渡り、日本にはまれな冬鳥として渡来する。北海道ではこれまでに胆振、空知、網走、根室の各管内からの記録があり（日本野鳥の会北海道ブロック支部連合協議会 1991）、十勝管内でも1991年3月26日にはじめて観察された。本報告では1969年以降の北海道におけるハクガンの観察例をまとめ、今回十勝で観察された個体の移動ルートについて若干の考察を試みた。

まず近年における北海道でのハクガンの記録を表1と図1に示す。これらの記録のうち春の10例についてみると、ハクガンの北海道への飛来は2つのルートに大別される。ひとつはマガンの群れに混ざり、宮城県伊豆沼、秋田県八郎潟を經由して道央の宮島沼、ウトナイ湖に至るルートである。1974年と1982年に飛来した個体はこのルートをたどったことがわかっており（星子 1985）、1976年3月にウトナイ湖で観察されたアオハクガンも、1975年11月2日に伊豆沼で確認されている（大沼 1976）。一方、道東の瀧沸湖（玉田 1972）や十勝で観察された個体は、オオハクチョウとともに移動していた。瀧沸湖で観察された個体と同一個体と思われる個体が、新潟県瓢湖や青森県大湊海岸、藤崎町平川で観察されている（玉田 1972、弘前野鳥の会 1991）。

今回十勝で観察された1羽について、北日本の各野鳥の会支部報やその他の野鳥情報などの記録をもとにその渡来ルートをたどると、以下のようになった。

まずオオハクチョウとともに「オホーツク-太平洋ルート」（松井 1988）を南下して1990年秋に風蓮湖で観察された2羽は、その後南下を続け、1羽が宮城県仙台市と松山町の間で、もう1羽が新潟県瓢湖で確認され、瓢湖の個体はのちに新潟県福島潟に移動した（日本の生物編集部 1991a, b）。これらの個体のうち1羽は1990年12月10日～1991年1月17日にかけて、青森県森田、狄ヶ館から同県温湯・浅瀬石川、十川常福橋上流で観察され、同時期に同県平内町浅所海岸でも1羽が観察されている（日本野鳥の会弘前支部 1991a, b）。このうちのどちらかの個体が十勝に飛来したと考えられる。

十勝でのハクガンの行動は以下のとおりである。1991年3月26日に浦幌町愛牛のデントコーン畑跡地でオオハクチョウの群れと一緒に初認され、それ以降同年4月6日まで同町愛牛や豊北の牧草地やデントコーン畑にとどまり採食していた。その後、4月7日にオオハクチョウの群れとともに豊頃町統内に移動し、そこでもデントコーン畑で採食していた。統内ではオオハクチョウのほかにコハクチョウ、ヒシクイ、マガンも多数見られたが、いつもオオハクチョウの群れに近い位置にいた。十勝での終認は同年4月16日で、4月18・19日と周辺の湖沼も含めて探索したが、姿は見られなかった。おそらく、行動をともにしていたオオハクチョウの群れとともに、秋の南下のさいと同ルートか、音更川から湧別川あるいは利別川から常呂川に沿った北上ルート（松井 1988）をとってサハリンに渡ったと思われる。なお、この個体は左翼初列風切の一部が脱落しており、また、左翼初列風切の最外部

1991年11月5日受理

1. 日本野鳥の会十勝支部、〒080 帯広市稲田町 帯広畜産大学野生動物管理理学研究室内

表1. 北海道におけるハクガンの渡来記録.

番号	観察年月日	場 所	状 況	文 献
1	1969年4月13日	根室管内風蓮川	単独で1羽	三浦(1969), 高田・三浦(1979)
2	1971年3月	網走管内滝沸湖	オオハクチョウの群中に1羽	玉田(1972)
3	1971年10月上旬	網走管内滝沸湖	ヒシクイの群中に1羽	玉田(1972)
4	1972年3月12日 ~4月22日	網走管内滝沸湖	オオハクチョウの群中に1羽	玉田(1972)
5	1974年4月13日	胆振管内ウトナイ湖	ヒシクイの群中に1羽	佐藤(1974)
6	1975年10月	根室管内風蓮湖	オオハクチョウの群中に1羽	高田(1991), および私信
7	1976年3月31日	胆振管内ウトナイ湖	マガンの群中にアオハクガン1羽*	星子(1985)
8	1982年4月3日 ~5月4日	胆振管内厚真, 空知管内宮島沼ほか	マガンの群中に幼鳥1羽	星子(1985)
9	1983年3月25日 ~4月30日	胆振管内厚真, 空知管内宮島沼ほか	マガンの群中に1羽	星子(1985)
10	1985年11月3日	網走管内能取湖	幼鳥1羽	大館(1986)
11	1986年4月12日 ~5月4日	空知管内宮島沼ほか	マガンの群中に1羽	星子(1986)
12	1988年4月23日 ~5月3日	空知管内宮島沼	マガンの群中にアオハクガン1羽	北海道新聞 1988年5月12日
13	1990年10月	根室管内風蓮湖	オオハクチョウの群中に2羽	松尾(1991), 高田(1991)
14	1991年3月26日 ~4月16日	十勝管内浦幌町・愛牛, 豊北, 豊頃町・統内	オオハクチョウの群中に1羽	本報告

*: この個体についてはマガン若鳥の部分白化個体とする考えもある(高野 1983).

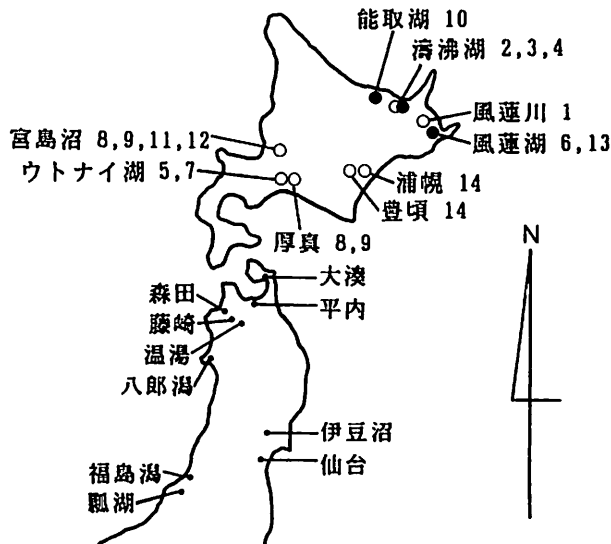


図1. ハクガンの渡来地点. 図中の数字は表1の番号に対応する.
白抜き丸は春, 黒丸は秋の渡来地点を示す.



図2. 北海道十勝管内浦幌町愛牛のデントコーン畑におけるハクガン (1991年3月30日).

羽先端が欠けていた (図2).

表1で示した14例のうち、番号13の風蓮湖の2羽と番号14の十勝の1羽は、前述したように1羽が同一個体である可能性が高い。また、番号2~4の濤沸湖の記録は同一個体と考えられている (玉田1972)。したがって、1969年以降北海道には12羽のハクガンが飛来したと考えられる。

本報告をまとめるにあたり、貴重な情報を提供して下さった根室市の高田勝氏、浦幌野鳥倶楽部の佐藤満・久保清司氏、日本野鳥の会十勝支部の小澤敬二・土田光子氏、帯広畜産大学の井関聡・池田徹也氏に深謝申し上げる。また、原稿の校閲をうけたまわり、多くのご教示をいただいた帯広畜産大学野生動物管理学研究室の藤巻裕蔵教授にも合わせて感謝申し上げます。

引用文献

- 弘前野鳥の会. 1991. 野鳥をたずねて二十六年. 弘前野鳥の会, 青森. 52pp.
- 星子廉彰. 1985. 北海道美唄市を中心に飛来する北帰行途中のマガンについて. ワイルドライフ・レポート (1): 51-65.
- 星子廉彰. 1986. 美唄市・宮島沼の渡り鳥について (1986). ワイルドライフ・レポート (4): 103-104.
- 松井繁. 1988. ハクチョウは今. 野鳥 53 (12): 14-16.
- 松尾武芳. 1991. 風蓮湖にハクガン. 雁のたより (37): 8.
- 三浦二郎. 1969. ハクガンの観察. 野鳥 34: 280.
- 日本の生物編集部. 1991a. 最近珍鳥情報 5 (2): 40-41.
- 日本の生物編集部. 1991b. 最近珍鳥情報 5 (3): 43.
- 日本野鳥の会弘前支部. 1991a. 初列風切 (50): 4.
- 日本野鳥の会弘前支部. 1991b. 初列風切 (51): 5.
- 日本野鳥の会北海道ブロック支部連合協議会. 1991. 北海道地域別鳥類リスト. 野生生物情報センター, 札幌. 268pp.
- 大館和広. 1986. ハクガン現われる2 能取湖 (北海道・網走). 雁のたより (26): 11.
- 大沼道弘. 1976. 宮城県伊豆沼に Blue Goose 現われる. 野鳥 41: 273-274.

- 佐藤辰夫. 1974. ウトナイ沼にハクガン飛来. 野鳥 39 : 490.
- 高田勝. 1991. 根室市庁管内鳥類リスト. 根室市博物館開設準備室紀要 (5) : 1-19.
- 高田勝・三浦二郎. 1979. 根室地方観察鳥類リスト 野付半島総合調査報告書, pp. 29-39. 根室自然保護教育研究会, 根室.
- 高野伸二. 1983. 野鳥識別ハンドブック 改訂版. 日本野鳥の会, 東京.
- 玉田誠. 1972. 満洲湖のハクガン. 北海道野鳥だより (11) : 4-5.

Records of the Snow Goose *Anser caerulescens* from Hokkaido
and the first sight record from the Tokachi District

Hisashi Yanagawa¹ and Mitsuo Mutō¹

The Snow Goose *Anser caerulescens* is a rare winter visitor to northern Japan. The species was first observed at Urahorcho, the Tokachi District from March 26 through April 6, and at Toyokoro-cho from April 7 through 16, 1991. This bird foraged on pastures and cornfields with flocks of Whooper Swans *Cygnus cygnus*. During the period between 1969 and 1991 there were 14 records of Snow Geese from Hokkaido. Some of these records probably represent the same individuals. Thus, at least 12 birds have occurred in Hokkaido since 1969.

1. Tokachi Chapter, WBSJ. Laboratory of Wildlife Resource Ecology, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine. Inada-cho, Obihiro 080